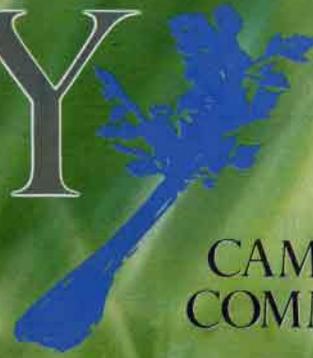


CELERY



No. 2
1989

CAMPUS
COMMUNICATION

新しい「私」が、いよいよから始まる。

卒業していく皆さんへ 「献身」と「チャレンジの精神」を

学長 倉恒匡徳



卒業生の皆さん卒業おめでとう。

長い間の苦しい勉学の努力が実り、めでたく中村学園大学、あるいは中村学園短期大学を卒業される皆さんに対し、教職員の皆さんと共に、心からお慶びを申し上げます。

今日は、皆さんが専門の学問を修得し、いよいよ社会に出ていく門出の日であり、一生の中で最も意義ある節目の日であります。そしてまた、学長として学生である皆さんにお話しをする最後の機会でもありますので、皆さん方一人一人によく考えて頂きたいと私が常々思っている事柄の中から、特に一つのことを選んでお話ししたいと思います。

それは、わが大学・短大を創りになった学園祖中村ハル先生のご生涯について、今後とも学んで頂きたいことでもあります。

皆さんが本学に入学されました時に、私は、皆さんが学ばんとしておられる栄養学や児童学や家政学は、いずれも『生きた人間』を対象とする学問であり、医学や歯学と同じように、学問の中で最も倫理性の高い学問であり、これらの学問を修めて卒業し、専門家として社会で活動する場合には、過ちを犯すことが絶対に許されないと。

という大変厳しい学問であるので、しっかりと勉強して欲しいと申しました。

皆さんはそのような厳しい倫理性をもつ学問を修得し、いよいよ社会に出て活躍されるわけでありますが、これからこそ、中村ハル先生の『生き方』が、皆さんにとって大変大切になってくると思うのであります。

本学で学んだ者は誰しも、先生の努力に満ちたご生涯に感動し、『努力の上に花が咲く』という先生のお言葉に心から共感し、生涯それを忘れることはないと思えます。

しかし、一口に努力と申ししても様々な努力があります。私利私慾のため、必死になって行う努力もあります。先生ご自身のなされた努力は、勿論そのような努力とは違って、ひたすら『人々のために尽くす努力』であり、『献身的努力』といふべきものであったと私は思うのであります。

先生は、立派な家に住もうとはされず、料理学院の中の小さな一室に住まわれ、そこから毎日大学に通われたと聞いております。身も、心も、財産も、先生は自分の持てるものすべてを教育のために、学生のために、捧げつくされたのであります。しかも、大学・

短大をお創りになりました時は、先生はすでに七十歳を超えておられたと聞いております。

なんとこの旺盛な『チャレンジの精神』でありましょうか。私が先生のご生涯について学び、最も深く心を打たれる事は、私が到底真似をすることのできない、先生のこの純粋な『献身的な努力』とその旺盛な『チャレンジの精神』についてであります。

そして、この『献身的な努力』と『チャレンジの精神』というものが、これから社会に出て、厳しい倫理性を求められている専門的職業人として活躍する皆さんにとって、とりわけ大切なことではないかと思っております。

勿論、自らの幸福のために努力することは、人間の基本的権利として認められることでもあります。が、人間の福祉のために働く場合には、ただ自分自身のために、それも自分の金儲けのためにのみ努力するという心がけでは困るのであります。何よりもまず、人々のために身を献げて働くという姿勢が基本にならなければならず、さらに、より良いものを求めて、常に、積極的に開拓し創造する気概がなくてはなりません。

勿論、そのように生きることが至難の技です。しかし、本学で学

ばれた皆さんにとっては、中村ハル先生という立派なお手本があります。先生のように、徹底した献身は、凡人の我々にはとてもできるものではありませんが、先生の示されたお手本に従って努力することは、なんとかできるのではないのでしょうか。

私は、皆さんが、このように積極的に人々のために尽くすということに心をかけて努力していかれば、どんな世の中になっても、価値観がどのように変わろうとも、未来永劫、心豊かに、心安らかに、暮していけるものと確信しております。

皆さん、折角、本学で学ばれたのでありますから、これからも折にふれ、『努力の上に花が咲く』を取り出して読んで下さい。幸福な時も、苦しい時も。

そして、今日私がお話ししました『献身』と『チャレンジの精神』ということも、時には思い出して頂ければと思います。最後に、皆さんのご幸福を祈ります。

(卒業式訓辞)



サークル 夢の中でも 踊っていた



短大 幼児教育科
山田 朋子

「これだ！」友達の論を広げるためにサークルに入ることに決めていた私は、次々と紹介されていく中でNDAというダンスのサークルに何か赤い糸めいたものを感じた。

NDAは学園祭での発表が最大の目標であり、九月になると朝から夜までダンス一色になる。恐しいことに夢の中でも踊っている始末である。時には意見が衝突した

寮生活 楽しいばかりじゃ なかつたけれど



大学 食物栄養学科
管理栄養士専攻
林 久美子

期待と不安が入り混じって始まった私の寮生活も終わりました。四年間を過ごした城南寮。あらためて振り返ってみると長いように箱かき、あっという間に過ぎてしまった気がします。

その中で、幾多の人との出会いと別れを繰り返してきましたが、彼女たちから得たことは、今の私に大きな影響を与えてくれたと思っています。時には悲しくつらいこともあり、楽しいばかりの寮生活ではありませんでした。しか

し、大勢の他人に囲まれて生活することで、自分を磨くことができたと思っています。

四月からは社会人になります。大学での寮生活で学んだことが無駄にならないように頑張りたいと思っています。

実習 不安が 自信に変わった



短大 食物栄養科
占部 智子

二年間の短大生活の中でも忘れることができないのは、集団給食実習でリーダーをさせてもらったことです。一年生の頃だったのでとても不安でしたが、自分の考えた献立が目前にできあがった時には、その不安も人きな喜びと自信につながっていきました。

また、一年生では城田ゼミに入り、四月月間久山町で食生活調査を行いました。聞き取り調査は大変困難でしたが、住民の方々の親睦も深まりとてもよい経験をさせてもらいました。この二年間、栄養士の勉強をし、また学外でのいろいろな経験を果た上で

「栄養士になりたい」という気持ちを伝えることなく卒業できることをとても嬉しく思っています。

就職活動 自分を見つめ直す よいチャンス



短大 家政科
廣瀬 孝子

就職活動は、私にとって自分を見つめ直すよいチャンスでした。自分のやりたいことは何なのか、ということを見つけたのはとても大変なことでしたが、先生方や友人の励ましのおかげで頑張ることができました。また、今まで知らなかった自分の一面を発見したり、精神的にも大きく成長することができたように思います。

「笑顔でハキハキと」これが就職活動のポイントのようです。

これから社会人として第一歩を踏み出すわけですが、短大生活で学んだことを今後の生活に十分生かし、自分を見失うことのないよう何事においてもチャレンジ精神を持って、一生懸命に努力していきたいと思っています。

努力 ひたむきに 走り続けた四年間



大学 児童教育学専攻
原 文也

私の学生生活は勉学とアルバイトに明け暮れた四年間でした。以前から「大学生活の費用は自分の力」と考え新聞奨学生になったからです。

働くことで社会の厳しさを身を持って感じましたが、いろんな人に出会い、人の暖かさにも触れることができました。新聞配達をやりとおしたことで、人間的にもひとまわり大きく成長できたと思います。また、時間的な制約を受けるなか、たとえわずかな時間であっても、それを最大限有効に使うことも身につけました。

この四年間やり遂げたことは大きな自信になりました。この四月から夢にまでみた小学校教師として子供達の前に立つことになりました。ここまでやれたのは、教師になるという大きな目標があったこと、いつも見守っていてくれた今は亡き母のおかげだと思っています。

「頑張る」ということ

女優 北極遠征隊長 和泉雅子



マイナス四十度にもなる厳しい世界で「頑張る」ということは、そんなに簡単なことじゃないんです。胆すえてかからないと中途半端な頑張りは「死」につながるんです。北極に行つて「頑張る」ということの意味を身体で知ることができたのは感動でした。あの苦勞を乗り越えられたから、今後どんな苦しいことがあっても耐えられると思います。よく、「ファイト！」って、声をかけますよね。あれとは違うんですよ。

北極で思ったこと

自然の大きさに比べたら人間なんて、ちっぽけな存在だなあと思って思いました。まるで塵か埃みたいなのに……。だから、いがみ合いとか嫉妬なんていうのはバカバカしいことですよ。

北極へ行こうと思った動機
最初は仕事で南極へ行つたんです。ペンギンの取材に。そこで、極地の大自然に感動して、地球の「下」へ行つたから今度は「上」へ行つてやれって……。最初は軽い気持ちだったんです。でも、お金がないから、計画書を作つてスポンサー探しをしたら、「マコ、気でも狂つたんじゃないか」って、最初は誰も相手にしてくれなかったんです。(アラスカのマツキンリーで遭難された)植村直己さんの奥さんにも最初は強く止められました。でも私が本気だつてことがわかると、「それなら応援しましょう」って、いるんな方を紹介して下さ

和泉雅子さんプロフィール

1947年(昭和22年)、東京生まれ。小学校5年生で芸能界に入る。昭和38年、「非行少女」の主演女優として第3回モスクワ映画祭で金賞を受賞し一躍スターの仲間入り。「絶唱」「光る海」など、映画出演は100本を超えたが、昭和43年に日活退社。以後、テレビ、舞台上で活躍中。
1985年(昭和60年)、北極点遠征を計画。北緯88度40分、北極点へ148キロメートルの地点まで到達。
現在、二度目の遠征中。著書に「わたしだけの北極点」小学生用の「めざせ、北極点」がある。

いました。一生懸命やっている私の姿が、ご主人にそっくりだったんですって……。 (植村さんの) 生まれ変わりじゃないかって。

イヌイット(カナダエスキモー)の子供達
子供でも生活の中に一人一人の役割が自然に決まっています。 (アツパリアスっていう鳥を捕える) 網の修理をしたり、幼い子の子守りをしたり……。 おもちゃなんて何もありませんよ。でも、遊びなんて自分で作つてしまふんです。

みんな目が生き生きしていて、私達の子供の頃ってあんなじゃなかったかな……。今の日本の子供達って豊かすぎると思う。

大自然の厳しさから教えられたこと
生命をいとおむこと。生命は二度とないんです。死んでしまつたら何にもならない。生命の尊さを軽く考える若者が多すぎると思う。もっと大切に生きてほしい。

若者について思うこと
女は女らしく、男は男らしくあつてほしい。姿、かたちをつくるんじやなくて、気持ちを「らしく」って意味です。
最近の若い人って笑顔が少ないですね。人とのつながりをつくる

ときには、笑顔と「ハイ」という返事は欠かせないことじゃないかと思う。

また、相手を尊敬する気持ちも大切じゃないかしら。(北極点への) 遠征は男性の力を貸らないとできなかった。男の中に女が一人いて、隊をうまくまとめていくには、相手の力を素直に受け入れること。そして、その中で自分ができる仕事を見極めることだったんです。これが、リーダーとしての私の役割だつたと思います。

北極へまた行こうっていう気持ち
北極が素晴らしいから。雄大で……。一目ぼれですね。

中村学園の学生へのメッセージ
生きるうえで大切なことは、「決してあきらめないこと」。でも、いつも肩肘張つていても生きていけない。力を抜くことも必要なんです。(力をどこで抜くか) そのコツをつかめたら素晴らしいでしょうね。

インタビューを終えて
北極点への再挑戦を語る和泉さんの瞳はキラキラと輝き、その情熱には圧倒された。苦しい時もつらい時も自分で自分を激励し、がんばり抜くチャレンジ精神。その笑顔、いつまでも忘れられない。

社会福祉研究会の活動に 厚生大臣表彰

大学社会福祉研究会が、その熱心な活動を認められて福岡県社会福祉協議会長から感謝状を受けたのに続いて、厚生大臣からも表彰された。この知らせを受けて部季を訪問、活動状況について話してもらった。

同部は部員数二十五名、活動は主に、福岡県前原町にある、特別養護老人ホーム「富の里」の訪問を中心に行っている。表彰されたことについて部員は「私達はボランティアをしてるっていう気持ちには無いので、表彰されたことが何となくピンとこない面もあるんです。でも、先輩たちからの代々の活動が評価されたことはとてもうれしいですね」と語る。

同部の例会は毎週火曜日と金曜日。毎月第一・第三日曜日に行つ

ている老人ホーム訪問の打ち合わせと反省会が中心になる。今一番の悩みは、今年新入生が一人も入部しなかったこと。「今年は、他の大学でも入部者が少なかったらしいですよ。福祉離れなのかなあ」「人数が増えれば、養護施設とか精進者施設とかまで活動範囲を広げられるのに」と活動継続の不安をもらした。

老人ホーム訪問
のことについて尋ねると、「こうした活動は、やっていく本人が楽しくな



いと続かないんですよ。だから大変だつていう気持ちはないんですよ。ホームのおじいちゃん、おばあちゃんに喜んでもらえることが本当にうれしい」「ホームは白を主体にした部屋がほとんどだから淋しいんです。だから、行事ごとにそれに合ったもので壁を飾りつけてあげると、みんなに喜ばれるんです」と、お年寄りとの交流の楽しさを口々に話してくれた。

ひろがれ!!

『ドンゴロかみなり』。児童学科児童学専攻の学生十人のグループ「プチンブイ」が作ったこの曲が、十月に福岡県田川郡赤池町で行われた、第一回新しい童謡創作曲コンクールで優秀賞を受賞した。(十三ページに楽譜掲載)

ほのほのとした暖かさや楽しさ、そして元気の良さが伝わってくるこの作品は、久富さよ子先生の音

ポケットいっぱいのメロディー

リズムの授業から生まれた。グループごとに自由な発想で詞を書き、何回も議論を重ねて曲をつけていく。その過程では先生の容赦ない厳しい指摘も多い。だから作品が完成したときの感激はひとしお。「自分達のつくつた歌を歌う充実感は、とても言葉では言いあらわせないよ」と、どの学生も言う。歌っているときの学生

達は伸び伸びとし、キラキラ輝いて楽しそうだ。

『ドンゴロ』の他にも昨年、毎日新聞社が主催した手づくり童謡コンテストで「SPスノーヒース」というグループの作品「ぼくのクレヨン」が特別賞を受賞している。

久富先生の研究室には、過去十年間分の先輩たちの作品が全て保管され、「ポケットいっぱいのメロディー」というタイトルで教材として使用されている。この本には学生達の苦心や夢、そして喜びがいっぱいつままっている。

幼稚園や保育園での実習にこの本を持っていくと、他校の実習生からも「これがあの……」と言われるくらい有名な存在である。卒業生と共に広がり、九州の各地で歌われているものもたくさんある。

これからも新しい「ポケットいっぱいのメロディー」がさらに広がっていくことを期待したい。

シリーズ 健康生活の ススム(1)

食物栄養学科・食物栄養科
助教授 城田知子



「アクティブ80ヘルスプラン」
これは、国がこれから推進していく第二次国民健康づくりのキャッチフレーズです。現在の豊かな生活事情の中で健康を守るために、どのように心身を活動させ、何をどれだけ食べたらよいかを国民一人一人にわかりやすく示していくとするものです。さて、近年国民の健康によせる関心が高まっているかを見受けられますが、果たしてそのとおりでしょうか。

いま、私が心配していることは、社会が豊かになって「食」について多くの選択が可能になったにも拘らず、自らの我侷な選択のためにその内容に著しい偏りが生じてきていることです。昨年、本学で行なった「鉄欠乏性貧血学生の食事摂取・有酸素運動による改善の研究」において、学生が気づかないうちに栄養のバランスを失っている例が数多くみられました。

また、私が調査した福岡県の15歳以上の者の食生活においても、20歳代の若い世代に「朝食抜き」が30%を越えていました。若者との日常の接触の中で感じることは、健康の裏づけとなる「食」行動がかなり衝動的であるということです。今回、貧血の研究にボランティアとして参加した学生は、日を追って示されるデータをみて初めて食事の重要さに気づいているようでした。

こうした食生活の乱れを目のあたりにしていると、日本人が作りあげてきた素朴な食生活の知恵を見直しながら、これら若い人たちに丁寧に伝えていくことが、これからの私の課題であろうと考えています。

考えてみませんか

老人問題

大学 社会福祉研究会



高齢化社会は、これからの大きな課題です。激しく変動する社会情勢の中で、私達の生活様式は大きく変化してきました。もちろん家庭生活もそうです。出生率の低下、あるいは核家族化や働く女性の増加など、社会集団を形成する基礎である家族のあり方も大きく変わってきました。

医療技術の進歩で人間の寿命は延びてきましたが、反面、お年寄りの介護者の負担増や医療費の負担増など、多くの問題も出てきました。高齢化社会に関する問題は、これからの大きな課題です。

さて、将来を担う若者は老人問題をどう考えているのか。私達社会福祉研究会では、中村学園大学の学生五百人を対象にアンケート調査を行いました。結果は別表（抜粋）のとおりです。

「自分の老後を誰に面倒みてもらいますか」という質問には、「実子」という回答が四十九・四％と多く、現在の自分の家庭状況と似通った点が多くありました。一方、誰にも頼らずに生活していこ

うと考えている人は二十二・七％もありました。

老人問題への関心度は五十五・七％と意外にも高く、中でも「痴呆」についてが多かったようです。本学には女子学生が多いためか、老人問題には割合強い関心があるようです。しかし、現実のものとしてはとらえていないのが本当のところではないでしょうか。

女性の立場は老人問題と深い結びつきがあります。というのは、老人を介護するのは、女性（妻や嫁）が九割以上を占めているからです。外で働く女性が多くなるとはいつても、家庭の中にあつては、老人の介護の負担はやはり女性に集中しやすいといった問題をかかえています。

その意味では、今のうちからもっと大きな問題意識をもって、考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

お年寄りにはみんなの暖かさが必要です

私達は今、老人ホームでのボランティア活動を行っています。高齢者の増加に伴い、老人ホームの

数も増えてきました。ホームでも入居者のために様々な工夫を凝らすようになってきましたが、結局は社会と切り離された世界にあるように思えます。

最近、近所付き合いも浅くなってきましたが、もっと温かい人間関係や周囲の人々の優しさにより助け合えるはずですが、もちろん家庭で充実した老後を過ごすためには、家族の協力や思いやりが重要です。

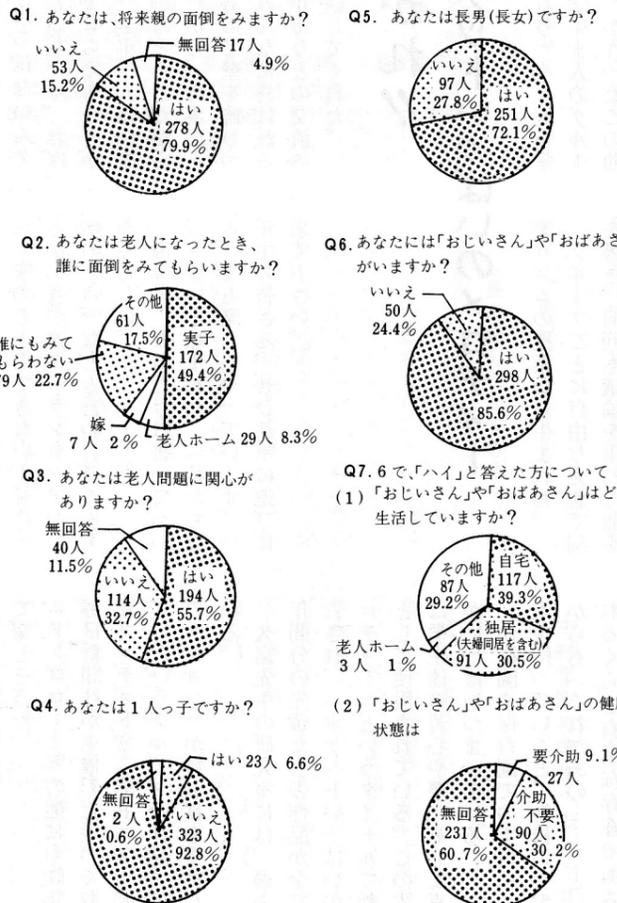
ホームの老人と接してみると、「寝たきり」になったときの介護は、在宅で家族に看てもらいたいというのが本音のようです。

そのために、医療や介護器具の充実、ホームヘルパーなどの増加に国はもっと援助を行う必要があるのではないのでしょうか。しかし、お年寄りにとって一番重要なのは精神的なサポートです。家族だけでなく、地域社会全体の相互の助け合いがまず基本だと思います。

最後に
私達は十一月の学園祭で、この老人問題に取り組みました。それは、これからの老人問題に対応していくのは私達若い世代の者にとつて避けられないことであり、広い視野の上に立つて、多くの観点からこの問題に取り組みることが必要だと考えたからです。

アンケート結果

配布数 500
回収数 348 (男 15 女 333)
回収率 70%



ファッションと流行

私達のゼミ研究
短大 家政科 木下武人ゼミ



植木 文美



安川 和子

私達のゼミでは、この一年間ファッションと経済の関係について研究してきました。その一環として昨年八月の初め、ゼミ生は二人一組で百貨店やブティックを訪問。様々なブランドで売られる多様な衣類の中から、ツイード、ワンピース、サマードレス、ブラウスの価格・形

・デザイン・色・素材について売れゆきを調査しました。その中からわかったことをかい摘まんで報告します。

(1)価格 その店がどの年齢層をターゲットにしているかが価格設定のポイントでした。例えば、OLをターゲットにしている店ではツイードが四万円前後、ブラウスは一万円前後、学生をターゲットとしている店では価格が下がって、ツイードが一万円前後、ブラウスは五千円前後となっていました。この価格設定は、一カ月の洋服の購入金額の平均が、OL三万〜四万円、学生が二万円未満という別の調査結果と照らし合わせてもつなげるものでした。

(2)形・デザイン 昨年最も注目を集めたデザインはボディコンシヤス(身体のラインにフィットしたデザイン)で「ボディコン」という流行語まで生まれたほどでした。また、スカート丈はひざ上十cm前後のミニスカートが主流で、店の人によると、「ファッション

の流行は社会情勢に非常に深く関わっていて、社会的に不安定な時にはミニスカートでタイトなものが流行る。逆に社会が安定している時は、フレアスカートなどやさしいシルエットのものが流行る」という話しがありました。

(3)素材 春・夏物で昨年特に注目された物は「本物志向」と言われ、素材も質のよいものが売れるようになっていきます。このため、今年の春・夏物も全体的に価格は高くなるようです。

以上は、調査のほんの一部のレポートですが、ファッションと社会情勢の関係についても知ることができ大変勉強になりました。また、この一年間のゼミナール研究で、ファッションを分析する目を養えたと思います。私達は四月から社会人になりませんが、これからは学生時代とは違った目で、常に敏感にファッションの現場を見つめていきたいと思っています。

寮生活礼讃

紫山寮舎監
片山 千恵子

寮生活は楽しい！
一五〇名の乙女の館です。話題は豊富、笑いは絶えない、時には涙も、この青春の思い出は、一生消えることはありません。

そして、その中から真の友人を得るのです。お互いに切磋琢磨して、色々な場面にどう対処すべきかを学ぶのです。
寮の食事はおいしい！
安くて栄養たっぷり、の食事ができるのは、栄養士と寮生の炊事当番が協力して料理するからです。寮の規則(ここで拒否反応が)

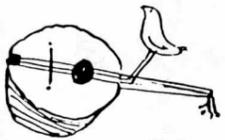
しかし、ルールのない社会は成り立ちません。規則正しい食事時間と、睡眠と運動が健康を保つのです。みんなで守れば辛くない！時間をうまく使う術は限られた時間の中から会得するのです。物事は考え様、良い方に解釈すれば精神面のプラスになります。

然し寮生は遊べないのでは？
とんでもない！
土・日祭日・特別外出、フルに使って遊びたいのだから大学生やめなくちゃ。
さあ、貴女はどちらを選びますか。
「一人暮らし？」
「寮生活」ですかね。漸くして学業と寮生活を終え心身共に成長し、実社会への素晴らしい切符を手にした貴女に、乾杯！

シリーズ

元気なサークル

(1)
マンドリンクラブ



「演奏はハートだ！」をモットーに活発な活動を行っているマンドリンクラブは、現在部員数72名(いち男子12名)サークルの中では最も大所帯のひとつである。

創部は昭和39年というから、大学の開学よりも古い伝統をもっている(大学は昭和40年開学、創部は現短期大学の前身、中村栄養短期大学の頃になる)。

普段はマンドリン、マンドラ、マンドセロ、ギター、ベース、パーカッション、管楽器の各部門に分かれ練習を行っているが、演奏会が近づく全員が集まるの合同練習になる。

部長の白石道俊君(児童教育学専攻2年)は「クラブの実力はまだまだ」というが、クラシックからポピュラーまで幅広い演奏を披露してくれる冬の定期演奏会を楽しみにしている市民ファンは多い。

大学(短大)に入学してから初めて楽器を手にしたという部員がほとんど。入部の動機は「寮の先輩に誘われて」というのが多い女子に対して、男子は「コンパで口説かれて」というのが多いらしい。「部の運営には男子のリーダーシップが必要」という男子待望論の裏には「楽器の運搬などの力仕事には男が必要」との女子側のおもわくもあるようだ。

「一人一人が毎日コツコツと努力した成果を全員で合奏に仕上げている。マンドリンクラブの魅力というのはその喜びを実感できるところにあります。縦と横のつながりは特に大切ですね」と白石君は語る。

ハートに響く演奏をこれからも期待したい。

心に感動を刻み込む

趙国良氏 胡弓演奏会開催

胡弓の名手 趙国良氏の演奏会が十一月二十二日、音楽館多目的ホールにおいて開かれた。(写真)演奏された曲目は「荒城の月」「赤とんぼ」「二泉映月」「光明行」など全十三曲。ピアノの柴戸亜樹さんとの息のあった演奏に、約五百人の学生、教職員が時間のたつのを忘れ聞き入った。

講演会も あいつぎ開催

「赤とんぼ」「二泉映月」「光明行」など全十三曲。ピアノの柴戸亜樹さんとの息のあった演奏に、約五百人の学生、教職員が時間のたつのを忘れ聞き入った。予定の曲目が終わり、最後に二人の演奏に合わせて聴衆全員が「草原情歌」中国の民歌を合唱して閉会した。毎年いろいろな音楽家を招いて開催しているこの「学内演奏会」は、学生に生の良い音楽にふれさせることで、音楽に対する感性を磨いてもらうことを目的としている。



- 今年演奏をしていただいた趙さんは一九四一年生まれ、中国遼寧省出身で、五歳から始
- 一、D・J・リード氏(米国オレゴン州立大学教授・環境科学センター所長) 酸素の海の生命・健康と栄養の関わり 十一月二十八日 福岡 博保氏(昭和女子大学教授・日本学術会議会員) 食生活と食生活指針 日本人の食生活と欧米諸国のものとの比較 十二月十日
 - 二、

- 三、G・P・アチャリア氏(ネパール・トリバパレ大学医学部教授) ネパールにおける保健行政と海外協力 一月二十五日 (以上、大学 食物栄養学科 栄養科学研究所主催)
- 四、井口 潔氏(九州大学名誉教授・佐賀県立病院好生館館長) 人間と教育 二十一世紀に生きる若者へ 一月三十一日 (大学 児童学科主催)

国際交流デー 開かれる

九州大学に学んでいる中国からの留学生六名を招いての交歓会が、二月二十二・二十三日の両日「国際交流デー」として本学で開催され、学生・教職員約百名が参加した。初日は、留学生が見た日本の印象や学生生活、中国の社会・文化・教育事情についての講演があり、参加者と活発な質疑応答がなされた。また茶道部によるお茶のもてなしや、簡単な中国語会話のレッスンも和やかに行われた。二日目は「中・日料理交歓会」。それぞれの国料理を一緒に作りたり食べたりで、会場は一段と盛り上がり盛会のうちに終了した。

ちよつと

インタビュー

白南珠さん

横顔

一九七〇年生まれ。韓国の永東女子高等学校を卒業後、現在、大学食物栄養学科食物栄養学専攻一年に在籍。「将来は韓国と日本の橋渡しになるような仕事をしたい」と語る明るい女性。

日本での生活は初めてですが、中学校三年から高校三年までは韓国で過ごしましたが、日本での生活は小学生の頃を含めて通算八年になります。だから特に異和感はありません。福岡の街も静かです。

大学生活には慣れましたが、父も福岡市内に住んでいます。初めての土地なので、友人をつく



り、もう一度仕事をしようと思つとき、資格があると有利だ」と言う大学の先輩がいましたが全く同感です。料理に興味があるので、三年生になったらゼミは調理に関するものを選びたいと考えています。将来は料理を通じて韓国と日本の橋渡しになれるような仕事につければいいなあと思っています。その意味では去

るには寮生活がいいと思つて入学と同時に紫雲寮に入りました。最初は(寮の)規則が何とかならないかなあつて思いましたが、今は特に困っていることはありません。父は自宅から通学したらいいけれど、友人もたくさんきて、しかも寮生活も続けていくつもりです。

制服については、高校時代に無かつただけに最初はびっくりしましたが、今は気に入っています。けつこつ、おしゃべりっぽい前日から何を着て行こうか悩まなくていいから。

サークル活動はマンドリンクラブに入っています。フルートを担当していますが、サークルは先輩や友人がしてくれるのでいいと思います。卒業後はどんなことをしたいか思っています。

これからは(女性も)職業を持つたないといけない時代になると思います。「結婚して子育てが終わる、もう一度仕事をしよう」と思つとき、資格があると有利だ」と言う大学の先輩がいましたが全く同感です。料理に興味があるので、三年生になったらゼミは調理に関するものを選びたいと考えています。将来は料理を通じて韓国と日本の橋渡しになれるような仕事につければいいなあと思っています。その意味では去

おめでとう げんごう

福岡県私立学校教育功労者表彰 家政科 江上一子 教授

福岡県の私学の発展、向上に功績があつたとして表彰。十一月十一日、福岡県知事から表彰状と記念品が贈呈された。

栄養士・管理栄養士養成 功労者表彰

食物栄養学科・食物栄養科 山内 須美子 助教授

福岡県の栄養士・管理栄養士の養成に功績があつたとして表彰。九月十三日、福岡県知事から表彰状と記念品が贈呈された。



学園回想 (2)

中村栄養短期大学の設立

学校法人中村学園理事長 中村久雄

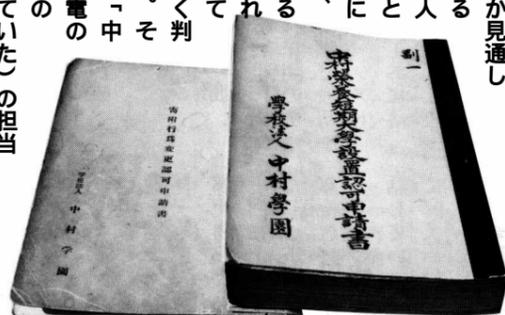
昭和二十九年四月、福岡高等栄養学校が開校したことは既に前号で紹介した。創立者中村ハルは「頭より、何より人物をつくること」が教育の基本であるとの信念にたっていたのだが、福岡高等栄養学校という栄養士養成を専門とする学校、所謂職業教育を主体とする各種学校、では教養、品性の滴養において充分でないことを痛感するようになった。そして同じ二年間の教育であれば、一般教育を履修する短大の方が優れていると考えるようになった。

昭和三十一年六月頃、中村ハルは文部省に出向き、既にある福岡高等栄養学校の校地、校舎、設備を母体として栄養短期大学設置の可否について相談した。当時九州地区には短期大学はせいぜい六、七校しかなく、文部省の担当官も軽い気持ちで「頑張つてやんなさい」とむしむる激励される態度であつた。

私はその頃九州電力大分支店発電係長で単身赴任中であつた。部下が十人位いて、技術屋としては割合張り合いのある仕事をして、時たま福岡に帰つて来て、

されているかを内容とするいわゆる寄附行為変更認可申請書と呼んでいるものである。前者の申請については文部省からの厳しい指摘を受けて、直ちに櫻井匠先生後の短大教授・学園理事や福大教授河原由郎先生後の福大支店長等のご協力を得て何とか見通しがついたようである。

が、後者の学校法人の経営や財産のことになると外部の人には全く判らないし、第一、創立者である中村ハル自身、優れた教育者ではあつても経営のことは全く判らない始末である。そこでこの方は専ら「中村久雄君(当時九電の学外理事に就任していた)の担当で進めてくれ」とのことである。



隣りの騒ぎを高見の見物とシヤレ込んでいたのがいつの間にか渦に巻き込まれたようなものであつた。九電大分支店の方でも技術的に非常に難しい仕事を手掛けていたので、その方も放っておく訳には行かず、会社の仕事が済み夕方六時、日豊線大分駅発の列車に飛び乗り、博多駅着十一時、自宅着十二時、徹夜で申請書作りをし、トンボ返りで大分に帰るといふ過密スケジュールも二回程あつた。

会社には内緒で、中村栄養短期大学設立準備室長」と名乗り文部省にも足繁く通い、何とかその年の十二月頃には認可に決つた。無我夢中の域を脱し気持ちにゆとりができたところで反省してみると、この三カ月間、九電社員として全く職責を果さなかつたばかりか、勝手な振舞いをしたことへの自責の念がつのるばかりである。一方この学校は銀行からの借入金をかなり抱えていたが、これには全て中村久雄の個人保証がついている。万一経営がうまくいかない場合の自分の立場等あれこれ考え、この際会社をやめ、中村学園の経営に本腰を入れたので、その方も放っておく訳には行かず、会社の仕事が済み夕方六時、日豊線大分駅発の列車に飛び乗り、博多駅着十一時、自宅着十二時、徹夜で申請書作りをし、トンボ返りで大分に帰るといふ過密スケジュールも二回程あつた。

英国の図書館を訪問して

最新設備のロンドン大学図書館

伝統を重んじるボードリアン図書館

図書館司書 松尾 よし子

イギリスに到着したのは八月四日午前五時、夏であるというのに気温は十一度。昼過ぎになっても気温は上らず、ホテルや車は暖房という冬のような寒さであった。目的は観光であったが、折角来たからには、かの有名なロンドン大学図書館とボードリアン図書館をぜひ見学しておきたかった。

ロンドン大学図書館は十九階建てで想像以上に大きくそびえていた。それは日本の国会議事堂に似て、石造りの威風堂々とした建物である。私を迎えてくれたロビンソン図書館員の説明は丁寧で、電算化から貴重図書、特殊コレクションにまで及んだ。



ボードリアン図書館にて

ロンドン大学は四十五のコレツジから成り、この図書館が中央図書館の機能を果たしている。蔵書冊数は百万冊以上、いち早く電算化に着手し、ブックデティテクション(図書の盗難予防装置)の採用、一般図書貸出のコンピュータ処理、文献検索、目録のマイクロフィッシュ化などの他、大英博物館や英国図書館などの所在検索(ネットワーク)をもできるよう

なっていた。更に、貴重本であるデイクレンズやジョーサーの初版本、キプリングの『ジャングルブック』の本を奥の特別書架から持つて来て、箱の中から宝物を出すように見せて下さったのは、何よりの喜びであった。

また、この図書館が誇りにしているゴールドスミス文庫には、一八五〇年までの経済学と社会史関係の図書が収集保存され、外国からの経済学者はこの文庫を目当てに来館するのである。帰国後、この文庫の偉大さを九州大学附属図書館報によってあらためて知ることができた。

続いて、世界的にも最古という、オックスフォード大学のボードリアン図書館を訪ねた。

中世期の七館から構成される二階が三階建ての建物群がボードリアン図書館で、近代的偉容を誇るロンドン大学図書館とは対照的であった。見学するには閲覧の手続きを取らねばならなかった。先づ、各国語で一枚一枚書かれた番書を声を出して読み、一切の規則を遵守すると宣誓らしきことをする。次にサインをし、スピード写真をとって閲覧証の発行となる。これによって私はボードリアン図書館のどこへでも自由に閲覧ができるようになった。

ボードリアン図書館の創設は一四二二年で、現在の建物は一六〇二年に再建されている。現在、印刷本の蔵書冊数は約四八〇万冊以上。納本特権を持ち、伝統ある古い図書館を金科玉条のどくとく堅守しているのが特徴である。

マルコポーロの『東方見聞録』や、『シェイクスピア全集』等、多くの貴重図書が収集されていた。私の目を引いたのは『鎖付き図書』で、その鎖といったらブルドッグにでもつけるような、太くてゴツツイ鎖であった。中世の頃は印刷技術がまだ発達してなく、数少ない本を紛失することは、宝物を失ったのに匹敵したからであろう。

この図書館では、電算化の動きは全く見られない。由々しき伝統ある図書館に電算を導入することは、異端者を受け入れるに値するとも考えられているように思えた。ちなみに、職員はなんと四百人位という潤沢な人数で管理されているとか。

イギリスにおけるこの対照的な両図書館を見るにつけ、そこには古き良き時代の賛美、伝統主義といったものを感じずにはいられなかった。

ESSAY ジョーの話

食物栄養学科 食物栄養科

助教授 橋本 俊二郎



ジョーに会ったのは、一年間のアメリカ留学で最初の訪問地、シアトルのアパートに落ち着いて半月程経つてからのことである。アパートの玄関横に、一日中椅子に座って飽きもせず外を眺めている老人がジョーであった。アパートの住人が玄関を出入りする度に、この老人に「ハイ！ジョー」と声をかけ、老人は右手をちよつとあげて会釈をかえしていた。最初は顔見知りであるのかと思っていたが、必ずしもそうでは

はないことが後でわかった。アメリカの街では、概してそうであったが、道で会う人、特に行き交う人たちは、全く見知らぬ間でも目が合うと、軽く会釈をするか「ハロー」と声をかけて通り過ぎる。日本で田舎を歩くと、見知らぬ人からいきなり「こんにちわ」と言われてびっくりするあれである。最初はアパートから大学の研究室までの二十分程の道すがら、見知らぬアメリカ人と声をかけ合うのが楽しみであった。若い女性の場合は特に。ただ時々浮浪者らしき者から「ギブミーニッケル」と声をかけられることもあったが。

さてジョーのことである。私が彼と話を交したのにはシアトル滞在中一度きりであった。休日の朝、郵便物をとり一緒に降りて行くのと例によってジョーの姿があった。子供達(当時小学校四年と一年それに二才)が「ハイ！ジョー」といつてかけ寄り何とかが話している。着いて間もない頃で、英語は全く解らない筈であるが、不思議と会話は成立しているらしかった。私も話に加わり、聞いた所では、娘さんがメキシコに居り、彼にも同年代のお孫さんが居るとのこと。懐かしうり切れた写真を一枚大事そうに取り出して見せてくれたことを憶えている。

ジョーのかかわりはそれだけで、私達は一月半程して次の訪



ジョーから届いたバレンタインカード

間地カンザスへ飛った。カンザスで迎えたクリスマスMASの折、ジョーにもカードを送っておいた。間もなく彼から小包が届いた。中はシヤレした壁掛けの額縁であった。添えられた手紙は彼が書いたものらしく、金釘流で必ずしも英文法になかった文章ではなかったが、何とか判読できた。彼のことを我々が憶えていて、カードをもらったのが余程嬉しかったようである。

同封されている。あのいかつい顔のジョーがスーパリーの学用品売り場でシールを買う姿を想像するだけで楽しい。それに必ず一ドルつづ三ドルの小遣いが同封されている。五年目の昨年のクリスマスには、やはりぬり絵と二ドルづつ値上げされた小遣いが同封されていた。暖かいマフラーでも送ってやりたいね、と子供達が話している。

校地

ESSAY

法人本部 総務部長

前田 文敏



三月初旬の肌寒いある日、私は中村事務局長(現理事長)と大学用地として県に払い下げを請願しているこの地にはじめて立った。

とが判読できた。彼のことを我々が憶えていて、カードをもらったのが余程嬉しかったようである。三人の娘は彼にとつてまるで天使であると言われていた。一人暮らしのさびしい老人の身が、この喜び様に感じられた。それから一年間の滞米中、また帰国後も、年に二、三回子供達に手紙が届く。ただ以後は、メキシコから会いに来た娘さんや、お孫さんの代筆が多い。封筒には、ぬり絵やシールが必ず

昭和三十九年、私が三十八才の

私達は荒れた畑の中道を通り、丘の上の職員室で許可を得てキャンパス内を巡視した。

しかし「学園の移転計画の遅れなど、県の事情で一括払い下げでなく、東側の運動場敷地からの分割払い下げとなり、その都度そこに校舎を建てざるを得なくなり、現在のキャンパスの姿となっている。

もはやこの地の想い出は、私にとつてはいつしか郷愁の地にも似た懐かしいものになっている。私の手元に古びた大学ノートが十四冊ある。学園に奉職し、この地に立つてからの仕事上のメモ帳である。

シリーズ

研究室訪問

(1)

家政科 井上 馨 教授



「よく学び、よく遊び、そして又よく学ぶ」これが井上ゼミのモットー。24名のゼミ生は、家族のように固い絆で結ばれている。1年生の12月にメンバーが決定し、2月は「井上ゼミ結団」旅行へ。昨年山陰・出雲に出かけた。

さらに7月の「就職戦線への出陣」旅行、3月の「卒業」旅行へと続く。合間にはピクニックやボウリング大会など1年間の行事は盛りだくさん。研究室の数冊のアルバムにはこれら行事の思い出がギッシリ詰まっております。その時々

学生たちが自ら企画・編集するゼミ通信の「かおるTIMES」もユニーク。研究室のコミュニケーション紙となっている。ゼミで培われ連帯感、卒業後も失なわれない。OG達との緊密なネットワークによる就職活動が効を奏して、ゼミ生の就職実績は毎年かなりのもの。

授業はとにかく厳しい。鬼の井上、地獄の法学とも言われる。遅刻したりマナーや挨拶が悪いと、とたんに注意がとぶ。私語や居眠りをしてる学生は「学習する権利を放棄している」と退席させられる。

新聞などから新鮮な話題、事例をたくさん集め、そこから法学の理論に入って行く授業。学生の興味を魅く「ワンポイントレッスン」など、できるだけ具体的にわかりやすい構成となるよう常に心がけて工夫してある。

勉強する時は目一杯厳しく、しかしそれ以外では、遊び心を十分に発揮してのびのびと。そんなメリハリが、研究室の魅力となっているようである。

Good-Bye and See You Again

定年で退職される先生からのメッセージ

学園とともに 三十五年

児童学科・幼児教育科 教授 末松 慶和



と昭和の後半の二十九年間勤務させてもらって、たわいで、

非常勤講師時代をいれると三十五年間お世話になったことになりま

す。中村学園との出会いは、私の母が昭和二十四年に中村製菓学院に勤め出した時から始まります。

中村ハル先生 顕彰碑の原石

食物栄養学科・食物栄養科 教授 山口 忠次



本学の正門を入って右手の丘の上に、中村ハル先生の顕彰碑が建

てられた。大理石とか御影石の磨かれたものではなく、高さ三メートル程の山石が碑石とされている。

昭和四十七年当時、私は学生部長として学生部にテラスがあり、月日までの記憶はないが、入梅前の五月頃に法人事務局の前田、牧草

創設に専念され、現理事長はハル先生を補佐しながら、一方で学園事業部を設立し大変なご苦労の結果今日の発展に至っています。

両氏に石の下見を誘われて初めてハル先生の顕彰碑のことを知った。

中村理事長(現、原学長(当時)、岩橋児童学科長(当時の一行六名で背振山の山麓の西油山に向った。西油山で学園の後援団体である中村学園会の会長、永島武雄氏の出迎えを受け、山腹の徳栄寺の境内に入った。同寺は永島家の菩提寺でもある。大学と永島氏との間で十分に打合せがなされていて最終候補地に向いた次第であった。

この境内からは玄海灘と福岡市は勿論のこと、ハル先生の出生地の早良地区も一望でき、境内に点在する大小の岩塊に、碑石にふさわしい原石があるように感じた。

アノ石コノ石と品定めしながら、ある家まで来た。その家の正門横にトビル新西一号館建設、食物栄養学科・児童学科の健康指導の協同研究、アジアに於ける食生活研究センター等を目ざし前進することとは実に希望に満ちた歩みであります。

私学のレゾン・デートル(存在の意義)はその個性にあると思えますし、個性のバックボーンは建学の精神にあると信じます。時代の変遷と共に伝統と創造のバランス、易と不易の調和を図り、身心共に健康で情緒豊かな平成改元に相ふさわしい歩みを願って止みません。

の石が目にとまり、永島氏が、「この石は如何だろう」と提案された。「派手さのない質朴の風格はハル先生を想い出させてふさわしい」と言われたのが今も耳に残っている。全員一致で原石は決定した。同年九月に顕彰碑は原石の姿のまま「努力の上に花が咲く」という先生の信念が碑文の末尾に刻まれて建立された。(写真)

小さなことにも 忠実に

児童学科・幼児教育科 教授 高島 澄子



健康だけが取り得たと思負っていました。私で済んだのに、昭和六十年秋から九州

がんセンターに入院、退院を繰り返す身となってしまいました。長期間の休職の末、昨年十一月十九日付で退職を致しました。在職中、学園の先生方には快くご協力と暖かいお交わりを頂いたことに心から感謝申し上げます。学生の皆さんにも迷惑をかけたまま、挨拶も致しませずお別れた失礼をお許し下さいませ。病院の生活では、点滴や輸血等、私にはどれも初めての体験は

顕彰碑は現在新西一号館の建設のために東へ約一〇〇メートル程移動されている。



かりです。きびきびした動きの中での看護婦さんのやさしい一言、何度感動したか分かりません。またお見舞いの心得など、私なりに多くを学び感謝しております。幼い頃、両親がよく口にしました、「どんな小さな事にも忠実に」この言葉がいつも呼びかけてくれるのですが、これまた実行はなかなかです。

過ぎ来し方を振り返りますと、明日に活力を残して心身の休養をもっと大切に。私の反省の一つとなりました。

現在の私は唯、体力の無さをしみじみ情けなく感じる今日この頃です。病気に負けることなく、家族の者たちと平和に心豊かな余生をすこせたらと願っております。新しく伸びる中村学園のご発展と皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

高島先生は二月二十一日急逝されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

百歳老人を

高知に訪ねて

食物栄養学科・食物栄養科 教授 緒方 尚子



昨年八月日本でも屈指の長寿県「高知」における百歳老人の健康

調査に参加した。チームは福岡市医師会支援による原病院スタッフの方々と本学学生等九名で編成し、男性二名、女性十名、計十二名の調査を行った。

高知県は四国山脈を北にして、南部土佐湾は太平洋に面した亜熱帯地域である。十二名のうち四名は、緑と太陽と水の豊かな特別養護老人ホームに身を寄せていた。他の八名は家族と同居し険しい山中暮らしである。森林を貫く県道は車の離合すら難事と思われる程の

坂道であり、それに沿って段々畑が点在する。対象は殆ど若い頃からこの地で力仕事をなし、今なお除草等に出る人もいた。診断では代謝、循環機能、ホルモン等異常なく、肝・腎も年令並に正常であったが、特老側にややクレアチニン値の低い人達がいた。若干の貧血が自宅側四名、特老側二名に見られたが、アルブミン値からみれば栄養状態は悪くない。年令的な造血機能の衰えだろう。

対象者は全般に長寿の家系であり、自宅居住の者は今なお自分の座を持ち、食事も量や味は家庭食の中から自分で調節している。中には「七人の児を自分で取り上げ、産湯も使わせた。今でも家の洗濯物を干すのは私の仕事」と言つ人もおり、どの老人も健気で極めて明るい。特老では徐々に全介助の身となりやや太り気味で動脈硬化指数も不良、痴呆も進んでいる。バランスのよい食事も今一歩介助者の観望が欲しいところである。GNP5%の医療費のうち六十六

%は中高年で費やすという今日、若い時から日常茶飯事でも合理的にさばく習慣を身につけておけば健康に老いを迎え、ボケ対策にもなるであろう。

私の研究は

今から本番

児童学科・幼児教育科 教授 中野 忠



美しい庭木を見ながら玄關にはいり、磨かれた廊下を歩いて美術教室を往復しているうちにいつしか七十年という歳月が過ぎ去ってました。その間、研究や授業に

多くの方々と出会い、助けられ、学生と共に学んできました。只思うに、やっと今、世の中が女性に開かれたというのに、学生達は年々チャレンジ精神を失ってきつつあることです。夢を持ってほしい。教師にとつては、学生の輝く瞳こそ、明日への充電の糧となるものです。

ご協力くださった大学当局・教職員の方々や、清楚で若々しい学生の皆さんと過ごせたことは、この上もない喜びでした。私としては、職務を全うするよう心がけましたが、充分なことができませんでしたが、しかし、大過なく今日を迎えることができたことは、皆さんのご厚情によるものと心から感謝致します。

振り返りますに、学生の皆さんに、私は授業で「造形美術」の担当をしました。この科目は、「知行一如」の実践が現在の教育に必要なことと一致します。皆さんはその意を汲んで、よく応えてくれ

ました。ところで、「造形美術」の学習は、テーマを色や形で自己表現します。表現されたものは獨創性があり、現代感覚が必要です。現代は過去があつてのことです。現代は過去を知らなければなりません。私は見ることを意識しました。見る程に過去の人たちの偉大さがわかります。中国・ブラジル並びにヨーロッパを廻り、特に年代による陶磁器の作品を数多く見ることができました。陶磁器五千年の歴史は奥深いものです。形・材質美・意匠までも、人の心の極限までが表現し尽くされています。

昨秋、イスタンブール・トプカプ宮殿に保存中の中国陶磁器や、日本江戸期の伊万里焼の傑作の数々に接し、その素晴らしさに心を打たれました。私の研究は、今から本番でありたいと思っております。

どうか、本大学が二十一世紀に向かつて名実共に発展されることを、心からお祈りして止みません。

シリーズ

子どもの心 (1)



壱岐幼稚園長

千葉胤昭

筑紫山地の山並、室見川の清流の大自然は、壱岐幼稚園の園児にさまざまな影響を与えています。

日中駆け歩き、とび廻り、遊びつつつづけていながらも涼しい表情を見せる子供達。その掌は土に汚れていても肌は柔らかく、それは心の肌の柔らかさを感じさせます。それに対して、私たち大人の心の肌のなんて荒れていることか。きっとさらさらとした心地の悪さを感じさせているだろうと恥ずかしさも湧いてきます。

秋も去ろうとしている時でした。「来て！カマキリが」と大声で園長室へ飛びこんできました。子どもが指をさすその先に、茶色の体がありました。「どうして茶色？」日頃は口数も少ない子が、カ一杯私に尋ねるのです。そのすさまじさに全身が熱くなりました。それはまさに、豆が大地の中から芽をふく瞬間、ぐんぐんと土の塊を持ち上げるような力強さでした。

子供の心は、大人にくらべると外へ働きかけていく力は弱いのが普通です。しかし、仲間とか大人とのかかわりの中の生活においては、その心の食いつき方は実に根深く根強いものがあります。子どもが大人に声をかけてきた時の思いは、一般に私達が考える以上にかなりの重要さがあります。したがって、外には弱々しいものであっても、精一杯の心持ちをもってきたものなら、目を傾けて聞き、取り上げる。それは、子供の人格的成長の上で一層重要なことだと感じています。



元気いっぱい——三陽中学一年生

併設校の話題

あさひ幼稚園

◇暖冬異変は幼稚園にも現われた。園で飼育している亀クンがなかなか冬眠に入らず、やっと寝床についたのが十二月二十日。「例年だと三月中旬には目を覚ますんですが、今年はちょっと早いかも」と、先生達も早い春の訪れを予想している。

◇給食の時間に聞こえてくるのはクラシックの名曲。良い音楽を自

然なかたちで聞かせたいと始めたもの。プザーの音で、給食開始よりおいしく食べられると好評だ。約一時間のBGMは、選曲からテープ編集まで先生達がやっている。大変だけど楽しい仕事のようだ。

吉岐幼稚園

◇自然環境に恵まれた吉岐幼稚園。科学的な「目」も持たせてやりたいと、年長組の園児六十三名が訪れたのは市立少年文化会館。初めてみるプラネタリウムの天体ショーに「イギリスの空も見せて！」「中国も！」との歓声しきり。

◇四月には念願の三歳児（年少）クラスができる。園児数も一四八名と開園以来最高の数になる予定。保育室も三月から増築工事を開始。父母の期待に応えたいと教職員も気持ちをひきしめている。

中村学園三陽中学校

◇中学・高校の一環教育を理想に掲げ昨年四月に開校。十一年後二十一世紀を迎えたときに、社会はどう変化しているか。その時社会が必要とするのはどのような人材かを見越し、心身共にたくましい男子をつくりたいと願う。

二クラス九十名の定員でスタートしたが、今年四月からは三クラス一三五名に定員増が認められている。但し、定員いっぱいに入学

させるかどうかは受験生のレベルを見て決める予定。

中村学園三陽高校

◇三月九日に第一回生二一六名が卒業。ほぼ全員が大学進学を目指し現在奮闘中。この三年間、第一回生としての自覚と誇りをもって努力してくれた彼らの前途を祝福したい。

◇スポーツでは、ラグビー部と剣道部が目覚ましい進歩をみせた。「花園」で、あるいは「玉竜旗」で活躍する日も近い。

中村学園女子高校

◇二年後に福岡で開かれる「飛梅国体」を目指して、福岡県も選手強化に力を入れている。同校から軟式庭球、なぎなた、バスケット、卓球、新体操の各々が強化団体に指定された。六十三年度インターハイ優勝の軟式庭球部、全国高校なぎなた選手権大会優勝のなぎなた部をはじめ、各部とも優れた実績をもっている。国体での活躍が楽しみだ。

◇卒業予定者の九割が進学を希望する同校。平成元年度の入学志願者数は三、〇五六名と過去最高になり、高いレベルでの競争になっ

この一年間は、本学にとって“新しい風”が吹き始めた年だった。4月、新入生は花井幸子デザインの新しい制服に身を包みやってきた。7月、西4号館が完成。児童学科と幼児教育科の研究室、実験・実習室が移転。学年暦も変わり暑い最中の前期試験となった。9月、本学の新しい顔となる新西一号館の建設が始まった。また、4月には三陽中学校が開校。既設の三陽高校とともに中・高一環教育を開始したのも、学園にとっては大きな話題である。この一年の“あゆみ”を振り返り、新しい年度に向けてのステップにした。

- 昭和63年4月
- 4日 入学式（大学生二六五名、短大生七八一名、計一、〇四六名が入学）
 - 5日 新入生オリエンテーション（56日）
 - 8日 講義開始
 - 11日 新入生宿泊研修会（516日）
 - 18日 第2回就職説明会開始（26日）



新しい風が吹いた

——この一年の動き——



新西1号館起工式

- 7月
- 2日 西4号館定礎式
 - 14日 前期講義終了
 - 17日 ソウルオリンピック新体操日本代表、本学体育館で強化合宿（24日）
 - 19日 前期試験（30日）
 - 4日 就職求人票公開
 - 15日 第15回夏季公開講座開催（55日）

- 10月
- 15日 就職採用内定開始
 - 5日 広報誌CELEERY創刊
 - 11日 第22回霜月祭（13日）
 - 20日 大学・短大推薦入試
 - 22日 趙国良氏 胡弓演奏会
 - 28日 D・J・リード氏講演会（オレゴン州立大学環境科学センター所長）

- 5月
- 8日 就職に関する父兄地区連絡会開始（九州各県および山口の10会場）（6月11日）
 - 16日 学園創立記念式典
 - 17日 学園創立記念日
 - 21日 第一期リーダー研修会（22日）
 - 1日 三陽中学校開校並びに校舎落成式
 - 29日 中村学園広石グラウンド拡張整備工事
 - 30日 ロバート・キャンベル氏講演会（九州大学講師）

- 7月
- 7日 なぎなた部、第26回全日本なぎなた選手権大会で演技競技優勝、団体戦3位入賞
 - 18日 西1号館解体工事の神事
 - 20日 就職会社説明会開始
 - 20日 後期講義開始
 - 22日 第二期リーダー研修会（23日）
 - 23日 父兄後援会地区連絡会開催（九州・山口地区10会場）（11月23日）
 - 24日 「地域社会における福祉と教育を考える」公開講座開催（12月3日）
 - 23日 父兄後援会地区連絡会開催（九州・山口地区10会場）（11月23日）
 - 24日 「地域社会における福祉と教育を考える」公開講座開催（12月3日）



- 12月
- 10日 福岡博保氏 講演会（昭和女子大学教授）
 - 17日 第三期リーダー研修会（18日）
 - 24日 講義終了
 - 9日 後期講義終了
 - 14日 後期試験（31日）
 - 20日 G・P・アチャリア氏講演会（ネパール・トリブパレ大学教授）
 - 25日 井口潔氏講演会（佐賀県立病院好生館館長）
 - 31日 2月
 - 1日 大学一般入試
 - 2日 短大一般入試（食物栄養科・幼児教育科）
 - 3日 短大一般入試（家政科）
 - 10日 大学・短大入試合格発表
 - 22日 国際交流デー（23日）



「あった／＼」入試合格発表

あなたの声を聞かせて下さい

本誌では、教職員・学生・父母・同窓生をはじめ多くの皆様からの意見や情報、投稿をお待ちしております。学園の身近な話題や本誌の感想、取り上げてほしい事柄、随想など何でも結構です。広報誌委員会までご連絡ください。なお掲載についての取捨選択は、当委員会にご一任願います。

編集後記

「エッ!! お願いできるんですか?」と、あわててしまった私達。「今、ここでいいですよ!」何の面識もない私達の、全く突然のお願いに、ニコッと笑顔でこたえて下さった和泉雅子さん。インタビューを終えた帰途、見上げた夜空の星があまりにも美しく輝いていました。

皆さんに見守られ誕生、名前をつけていただいたCELEERY。わずかずつですが成長してきました。まだヨチヨチ歩きですが、好奇心旺盛に動き回り始めました。

トシゴロかみなり

作曲 作詞 橋本 郁代

西 昭子 南野 昂子 橋本 郁代 橋本 里美

花田秀幸子 原田 由香 藤野 礼子

藤本 雅美 洲上 純子 坊野 徹哉